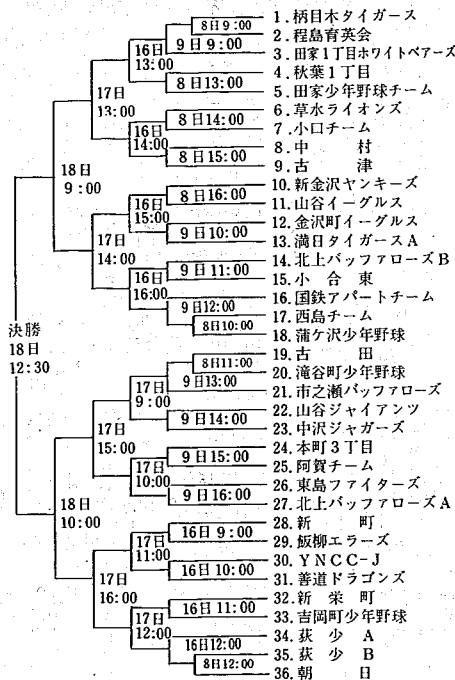


町内対抗野球大会 市長杯めざして62チーム 少年野球には36チームが参加

すっかり夏の風物詩になった、町内対抗野球大会と少年野球大会の組み合わせが、それぞれ表のように決まりました。

昨年とくらべると町内対抗野球では、5チーム多い62チームが、少年野球では1チーム多い36チームが参加して、市長杯めざしてがんばります。あなたの町内やお子さんのチームの対戦相手はどこでしょう。炎暑の中、プレーする選手にぜひご声援ください。
なお昨年、40歳以上の人を対象に開いた「壮年野球大会」を今年も開きます。くわしくは次号でお知らせします。

第5回新津市少年野球大会組み合わせ

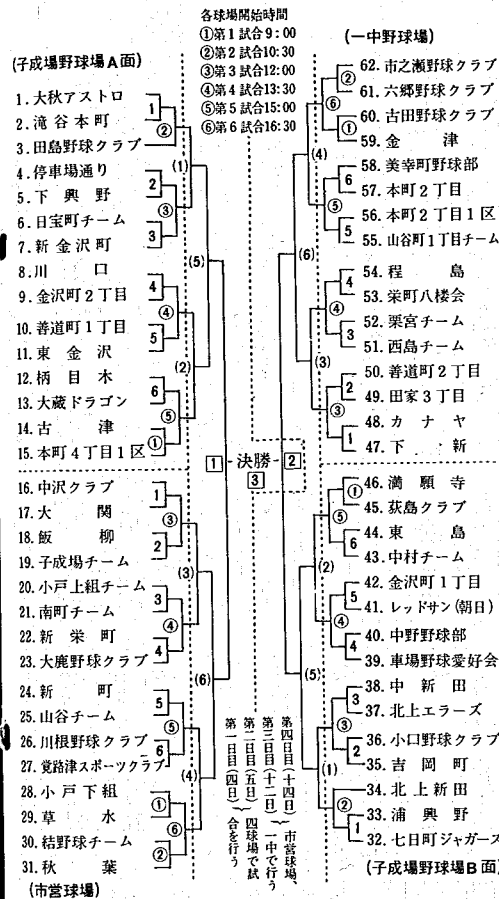


期日 8月8、9、16、17、18日
会場 新津市営球場
(開会式 8日午前8時)
(閉会式 18日午後2時)



新津っ子の「甲子園」、一昨年の少年野球大会の開会式風景

第31回市長杯争奪町内対抗野球



(表の見方)

1...第1日目の第1試合 (1)...第3日目の第1試合
①...第2日目の第1試合 (1)...第4日目の第1試合

明治夜話



(40)

市島氏が明治の四年頃の少年時代に、「外人スネルが新潟の街頭を散歩しているのを見た」と記されているのは、氏の当時の目撃談であるから之は確かなことであろう。ただ、之を、

「此移民(スネルのカリフォルニアへの移民)が全く失敗に帰し、彼は妻子と共に夜逃げをして...再び日本に帰って来た。多分自分が新潟に見たのは、米園から逃げ帰り、会津に入ることも出来ず、新潟に住したからであらうと思はれる」と推定されているのは誤である。というのは、明治二年から明治四年頃迄、新潟にいたスネルという外人は、

「明治二年六月二十八日付(一)明治二年六月二十八日付の手紙をエドワード・スネルの署名で、新潟から旧長岡藩主へ送ったスネルであつて、この手紙の冒頭には、新潟にて、
明治二年六月二十八日

「長岡太公殿へ、未尊顔を拝し奉り候得共...私義家兄上共、再三拝受仕候御尊慮之旨に奉感大慶至極に奉存候。」とあり、手紙の末尾は次のようである。
「此書之主とする所は、御芳情深謝之義、並にまた尊君殿下と家兄との交情を思ふにあり、猶また御尊志の義は、私より家兄方に可然申通せん」と奉存候。頓首百拝誠恐謹言 殿下の小儀 エドワード・スネル

「明治二年十一月新潟町外人改(一)新潟開港百年史」に、「大川前通四ノ町の加賀屋吉左衛門方に、フロイス商人エドワード・スネルが居留していたとあり、新潟県から外務省に報告されている。『新潟古老雑話』の中の馬場八郎翁談、の中の「この人(スネル)は慶応三年来港し、しきりに東北軍に軍需品を供給し、いよいよ新潟が破れると横浜に通れたが、明治二年春委

所持ノ書物ニテ相分ル、當正月ヨリ、会津ヘマリリ居候フロイス商人、當時平松武兵衛ト申者、スネルト申者、ヨホド賊ノタメ外ノ事周旋イタシ候由」(復古外記) 即ち、エドワードの兄が平松武兵衛であつたことは「米沢戊辰実記」にも、「スネル乃ち新潟に在留して、我が爲めに洋銃器械を輸入する周旋を爲す。我が軍、銃砲弾薬の欠乏を告げざる者、スネルが周旋

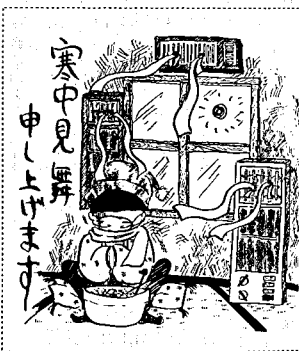
市島春城の見た新潟のスネル

阿達義雄

平」と記されている。この兄スネル即ち平松武兵衛がヘンリー・スネルであつて、この人物こそは明治二年五月、会津藩の移民を率いて北米カルフォルニアのコロマ村のゴールドヒルに入地したスネルであつた。

お買物、ご用命は市内で

駐車場完備 胃腸・皮膚・肛門(ぢ)・泌尿・X線
山田外科医院
新町2丁目1-6 TEL(2)0432



新津高校マンガクラブ 古石ゆき子(2年)

お買物、ご用命は市内で

家庭用水冷井戸 クーラー無料診断
水井戸+モーターポンプ+クーラー=一式 工事とも引受けます。消雪にも効果があります。
阿賀鑿泉 電話番号の訂正 (誤) 4-1047 (正) 4-1074
新津市下興野20~9

今年もエアコンを選ぶなら 井浦デンキで!
完全アフターサービス
井浦デンキ
新津市本町2丁目 TEL 代表 44141